

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立川崎特別支援学校

特18

自己評価	
学校運営計画(4月)	
学校運営方針	児童生徒一人一人が大切にされ、将来の希望が見いだせる学校づくり ○ 一人一人の教育的ニーズに応える学校 ○ 児童生徒の人権が尊重された安全で安心な学校 ○ 保護者や地域社会に信頼される学校
昨年度の成果と課題	年度重点目標 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の実践 安全・安心な教育環境の整備 保護者、地域、関係機関等との連携
具体的目標	具体的方策
評価(3月)	次年度の主な課題
教務	系統性や教科横断的な視点を取り入れた年間指導計画と単元題材別指導計画を作成する。 PDCAサイクルにより、生活単元学習の年間指導計画と単元題材別指導計画を改善する。 諸帳簿等の運用、作成に関して作業時期や点検基準、回覧方法等を周知する。 個別の指導計画や個別的教育支援計画、指導要録、出席簿等の作成方法、原本の取扱いを周知する。 統合型校務支援システムでの作成、保存等について計画的に全体周知し、諸問題に即時に対応する。
学習指導	(小)安全・安心な校内行事・校外行事の実施に努める。 校外での学習における教師の引率体制と役割分担を明確にし、それぞれが確実に把握する。 実施後に児童の様子や教師の動きを振り返り、次年度に向けて実施計画を加筆修正する。 (小)不登校や不適切行動の対応について、情報を共有する。 学部会等を通じて、気になる事案について情報を共有する。 スクールカウンセラーや外部専門家からの助言を参考に、教師の関わり方を再考し、学部内で共有する。 (中)生徒の主体的な活躍の場となる安全な校内、校外行事を計画し、内容の充実を図る。 学部内で共通理解するために、実施計画を基に学部会で確認する時間を設ける。 (中)本人や家庭環境について理解し、適切な合理的配慮を提供することに努める。 家庭環境把握し、本人や家族、福祉サービスなど必要な支援について学部で検討して共通理解を図る。 学校生活全般を通して一人一人の人権を尊重し、年齢相応の対応を心掛ける。
情報	ICT活用がしやすい環境を整える。 校務用サーバーや生徒サーバーの各フォルダを使いやすいよう整える。 ICT活用に関する知識や操作に体系的な情報提供に努める。 学習指導におけるICT活用を推進する。 知的障が教育におけるICT活用の情報を集め、情報共有できるようにする。 教員のタブレット活用のスキルを高める研修や情報提供を行う。
児童生徒	児童生徒の実態把握を行い、問題行動に対して、未然防止に努める。 児童生徒及び保護者へ学校生活アンケートを実施し、問題行動(いじめ問題含む)等の早期発見に努める。 児童生徒間の良好な関係を築くような活動を計画する。 集団の一員としての自覚を高める全校集会・学部集会等の活動を積極的に行う。 児童生徒会役員及び専門委員長が活躍する場面を設定し、実践する。
保健	保護者や医療機関、保健福祉機関との連携し、安心・安全な環境作りを努める。 児童生徒の健康面の相談を受け、必要に応じて専門機関と連携をとりながら対応する。 児童生徒の心身の健康維持増進と食に関する指導の充実を図る。 研修会を通して、職員や保護者に保健関係の情報提供を行うとともに、学校保健に関する意識の向上を図る。 児童生徒の健康面の課題について把握し、学校医と連携しながら対応する。 栄養教諭を中心に、献立を題材とした指導を充実させ、給食を通して望ましい食習慣を獲得できるようにする。
進路指導	現場実習に係る業務を円滑に進める。 担任が見直しをもって現場実習に係る業務を進められるように、スケジュールを作成し、提示する。 担任と連携し、生徒主体の現場実習報告会を実施する。小学部及び中学部の保護者に参加を募る。 児童生徒の発達段階に応じた進路学習(キャリア教育)の充実を図る。 昨年度作成したキャリアプラン表を基に、小1から中3まで一覧にしたキャリアプラン表(試案)を作成する。 職員研修等で、キャリアプラン表(試案)について、共通理解を図る。
庶務	PTAの学校行事の意義やねらいに対する理解を深める。 保護者と教職員が連携をとり、学校全体の課題を共有する。 PTA行事や学校行事後に保護者、教職員にアンケートを実施し、意見を反映する。 「学校だより」等を定期的に発行し、学校行事や取り組みの様子を保護者に周知する。 学校行事の様子や取り組みの内容などを保護者に周知する。 情報教育課と連携し、諸便りをHPIに掲載する。
研修	主体的に取り組める校内研究組織づくりを行う。 充実した内容で実施できるように、研究計画の提案や研修時間の確保、研修日程等の連絡調整を行う。 研究推進委員会を定期的に開催し、情報の共有を行い、効率のよい研究推進に努める。 若年教員一人ひとりが、自律的に学ぶ態度の育成に視点をおいた研修の充実と努める。 指導教員及びサポート教員と連携・協力し、授業研修や課題研修が円滑に行うことができるよう協議を行う。
支援	教育委員会や関係諸機関と連携し、地域の学校等への相談支援の充実を図る。 学校見学の際、教務部と連携し、保護者や就学前施設関係職員等に本校の教育相談についての情報を発信する。 地域教育職員のニーズを収集・把握し、特別支援教育学習会を計画・実施する。 校内における支援体制の充実や啓発を図る。 スクールカウンセラーや外部専門家と連携し、実態把握や指導・支援の充実が図れるよう、活用を促す。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見